

周易鈔

晉大有坎
既濟

常事... 後... 徳... の... 行...

ら... の... と... 終... 新... の... 行...

た... の... と... 文... の... 象... の... 行...

し... 我... の... 道... と... 達... の... 行...

○象曰明出地上晋君子以自昭明德、
メイトハツトチキツクニシヨロモツチミツカフキヨカス
と云は、日北地より出てきて

明... の... 徳... と... 昭... の... 行...

心... 徳... の... 行... と... 昭... の... 行...

○初六晋如摧如貞吉罔孚裕无咎、
メイトヨリサイメイトリテイニキツクナシ
此... の... 行... は... 晋... の... 行...

進... の... 行... と... 孚... の... 行...

き... 意... あり... け... の... 行... と... 道... の... 行...

せ... の... 行... と... 寛... の... 行...

て... の... 行...

○象曰晋如摧如獨行正也裕无咎、
メイトハツトチキツクニシヨロモツチミツカフキヨカス
受... の... 行... は...

し... の... 行... と... 道... の... 行...

と... の... 行... と... 官... の... 行...

那... の... 行... と... 道... の... 行...

○六二晋如愁如貞吉受兹介、
メイトハツトチキツクニシヨロモツチミツカフキヨカス
于... の... 行... は...

後... の... 行... と... 愁... の... 行...

乃知河上之志也

進退の道からぞし

貞の北正し然れども其の情で心通と久しく守

てあつてあつて人の来とあるを其の情で心通と久しく守

○象曰受茲介福以中正也

久しくあつてあつて人の来とあるを其の情で心通と久しく守

とあつてあつて人の来とあるを其の情で心通と久しく守

○六三衆允悔亡

たるは悔あるべからず

るよもり衆人と志して

其の悔るるは悔ぞけり

悔る進むるは悔ぞけり

○象曰衆允之志上行也

のたのむるは志上行の志

せられてもその志上行の志

情で心通と久しく守

九四晋如鼫鼠貞厲

のたのむるは志上行の志

物成るるは志上行の志

けし物と心我私の心と
此は危き事ゆかき功あり
答ふらむは心持は清くして
さきあり

象曰維用伐邑道昧光也
とつはと剛と云我身
修て功ありと云中白のたぐ
もさあたらざればも道大いあ

らハまざらむは此物と事
進ぶるに格も情をさかり
元龜曰竜剣出匣之課
とつは物の短急なりと云

とつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつ
義なり

ト解曰晋者進也明出於地
とつは日の地と云
く威と云とつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつ

ト象曰如日出地明漸升天
とつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつ

ト干詩断曰雲散月當空
とつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつ

道と云とつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつ

火天大有

○繇曰大有元亨、大有と乾のひまはらつとて尊を敬い卦は一陰

を尊に何れも又陽はれは尊を敬ふ故に大有と云は共尊に

位あるもの故に尊を敬ふはあはらるる如く尊を敬ふは尊に

尊を敬ふとありては、いかに尊を敬ふは天より尊を敬ふは

文の徳を以て我を敬ふは、又尊を敬ふは、いかに尊を敬ふは

○彖曰大有柔得尊位大中而上下應之曰大有、とりあは

此卦の六五陰を尊とて、尊を敬ふはありては、尊を敬ふは

て上より尊を敬ふは、尊を敬ふは、尊を敬ふは、尊を敬ふは

るは衆人の穢多る事あり。此九二を徳剛健より天子
意として行あるは元亨此意あり。強順路も情何ば人の
事をもあつてありと云ゆあり。

○象曰火在天上大有君子以遏惡揚善順天休命。火天の上

より何れも善物と思へん。た有とまらば君子は意を
前の惡抑ふめ善類とあげて天の休命を志す。くも
此理よ志す。ぐひて情何とて有あり。

○初九无交害匪咎艱則无咎。此何。王命を大有此始

るよりあり。も意あるとあり。果あると意して三より
是のふも。玄纒よ。驕盈の知るにあり。害も海とく知能
此の持て情。富む此とあり。艱難をよひ。驕を畏ん。あら
智ありとて。にあり。

○象曰大有初九无交害也。とつは大有此始。王命を

艱難とあひ。天溢のふも。とて。情何とて。にあり。
ら。に信ふに。より。害ありとて。有あり。

○九二大車以載有攸往无咎。此何。王命を剛中を

より何り。二も此陰柔あり。も。に。の。拘。任。せ。て。
あり。車。も。拘。行。か。し。も。ま。せ。ら。る。

其意あるところの極小情 端遊して原をくゞる我の心
損するところあるところも物と意とをさうやうに持て無咎意

○象曰匪其彭元咎明辯哲也 ときんもさあんなるるところは
いふくゆは物と已にまはるに極小情とてもいふは
ふもたきけとぬらあむとりふあふら

○六五厥孚交如威如吉 此何とるまあた大有の時にあ
たらしてそき信より何れ人の君たるもの象の原よりい
申通とては字あまの義も甚字信れまことの道はた
されは衆人も信と信してよりほき此の信と信で

上九お交らば衆の志もらまあまふらあまふらあり
○象曰厥孚交如信以發志也威如之吉易而无備也と
いふは我の信字ありまの人の字とて上九の志を
まはる何れんうん信ありま

○上九自天祐之吉无不利 此何とるまあた大有の時
あり信の地のうたは有の極もまはるは
がらハも極とるふらまはるは
いてもいふは剛とるまあた
ものもあまはる賢者もあまはる

よそ天より福河をまききなり

○象曰大有上吉自天祐也 タイ エウワノミヤクキツナルトハヨリニ とりあはたい子有の福を

まはらつてと喜ぶべきと何れたまはるを要するはあつてい道

よ叶ふぬ天より是とたきくると何れぞ此の福をそ天乃

たきくるとは明路にある人のたきくると信あるよふ

豊よそてもとつるよむらぎらやうよ信でまこ

○元龜曰金玉满堂之課とつふ八財用家子満程よりぞ

日廉中天と云そんおれにむよそ人どめむものんた

もちそまのり

○ト彖曰昔曾作福今者有慶 ムカシカツテサハハヒイニ とつふと前より

福をふまきより今のよりまがとぬと何れむ然らば

しおれ兄弟此道も行男女たよふし徳を何れ

まはらつてあむ福信で進轉ゆくとよ記あり

○ト象曰日照天中夏向明居家治業有増益とつふは

日中のめあるごとく夏を治めよふしお業さふ

あむ福信らばよ記ようけり名を治ると何れむんおれ

屋うよ信でよ記あり

○十干詩断曰欲進又徘徊 ツツノスニミトニタハイクケイム 今つあは進退自便の

かゝるやうなあふむれしたるおぼやぶも、まを交わす
あゝバ危とあふむれなり

○評曰タイユラハ大有者ユタカナリ寛也クワンニヨウ大イ有ツのクワンニヨウ寛裕ユタカよりして隘セハシき
こゝあふむれゆきけりあつバ官爵クワンニヨウ多ク財用増ニシえを
事タスケ成能し天の祐タスケ何ニむ情ニ成あつぐまの程ニあり

坎為水

○繇曰シツカンハアリ習坎有孚ニヨト維心亨コノロトヲル行有尚ユクオハアリ習坎ハ木まで

けりしきと一陽二陰の中よをちへく艱難カンニシのんあまきと陽
中ウチ子あるは内ウチの字あるの義也ト主字トのんとうトのふとこれバ
艱難カンニシのむづトきまものかきニ金ニ存ニのトとくト堅物トも通ト水ト
火トのトとくト危トも行ト逆トの功トあり水ハ市ト象トのト雲ト子トあトこがふ
の情トもトちトかり

○彖曰シツカンハ習坎重險也ニ水流而不盈ニ行險而不失ニ其信ニ
と云ハ木トのふトれてト盈トるトとくト拘トの盈トとトかト記ト理トうト子トのト

中よありてと字の心と失りては、一ととこらひては、
のぐれおて功とふまぐし、けいおちよて、王公ハ設險守其國と
とく剛中のみと道とほくま、時を陰難ありとも字の心と
おとと成く、維心亨てふ記あり。

○象曰、木洊至、習坎、君子以常德行、習教事。と云は、
兩坎相習、木洊至の象と、君子是とんく、木の常よなれ
て不舎とく、其徳と平生とこころを、行て教の王と丁寧
し、して厚まざるぞ、けいおちよて、あ、流て厚まざれば、大河とある
どく、んも、まびて厚まざれば、人賢ともなるの情ありてを也。

○初六、習坎、入于坎窞、貞凶。と云は、陰柔よて、坎險の
ちよあり、柔弱よして、まろくたまけあきよより、危とありて
ざんぞ、けいおちよ情、あきまよをち入ると、かく、他よ、持あてふ
き、厚うよ、けいおちありて、まろかり。

○象曰、習坎、入坎、失道、凶也。と云は、習坎の險うつよ、又坎
膏よ入て、重て出とよをち入ハ、道と失つよ、よりを、よく情であ
し、き、如と、お、厚う、ふ、けいおち用て、ふ、記あり。

○九二、坎有險、未小得、。と云は、至而、坎險の中よをち入
て、おて、險、雨、おち、けいおち、剛中の才あると、い、つ、ぞ、けいおち、は、る、は、る、

○上六係用徽纆實于叢棘三歲不得ハハニニニキホクヲオクソウキリサンセイニチニズエ 凶トシ 是南ハ 如也

陰柔小く厥極キ ありよりト ち入りト の凶キ のぞト 去キ 禮キ 係キ

係キ してト 替キ 林キ ありト ぐト 久キ 一キ 全キ ありト 變キ ありト ざるト けキ ちキ

てキ ありト ハキ 子キ 改キ るト 厚キ 子キ 情キ ありト バキ 免キ 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト

○象曰上六失道凶三歲也セウラクハハウミナフミナラフアヒハサンセイナリ といハ ハキ 陰柔の弱ヨウキ ざキ 陰の極

なりト よりト ありト 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト 失キ るト ぐト じキ けキ ちキ ありト ざるト 一キ ありト

どキ ぐト 情キ ありト 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト

○元龜曰舩涉重難之課フチノセツノモウラナシラ といハ ちキ 木キ 渚キ の難キ 亦キ 危キ 厚キ

なりト 變キ ありト 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト 難キ ありト 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト

けキ ちキ 實キ ありト 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト

けキ ちキ 實キ ありト 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト

○ト彖曰遇事未遑コトニイニダトダ といハ ちキ 事キ の遑キ ざるト 一キ ありト

けキ ちキ 實キ ありト 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト

けキ ちキ 實キ ありト 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト

けキ ちキ 實キ ありト 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト 一キ せキ けキ ぐト 一キ ありト

水澤節

○繇曰節亨苦節不可負 節ハふしともみえともむ

ぞげ卦カミ上ナシ坎水あり 下ミニ元ダはありて 水の木と入カキと限ありぞ水

満ミツまバあふれまクかけまクあらむクは節の義と次は心

持チ持チ情ニとク物ノのミ及キなりクて 中ナカはけケ小コ大ダイ一ニあまる

きびキ一ニまキよクるハ節ノは苦クありと次はくクともク変ヘなりクて 百ヒャクありと

かカババきキなり

○彖曰節亨剛柔分而剛得中 中ナカハ節の道ハ過

る及キなりク中ナカはけケ小コ大ダイ一ニあまる

るもの事、の事あり、節も去りけま、道若でをこるれが、
はに度あり、も節はあむむら城、と天、地も節あるて、
とたむむ、聖人の制度とま、材と小傷氏と、
と人の欲の窮なり、制度と、超一め、財と、
どのの情もて、まにあり、

○象曰、澤上有木、節。君子以制數度、議德行。と云ハ、
沢の水と客と、
んく、物の數と定めはと、
ど、
るき、
初九、不出戶庭、无咎。け、
と、
守と、
ま、
○象曰、不出戶庭、知通塞也。と云は、
護守り、
と、
○九二、不出門庭。と云は、

初九、不出戶庭、无咎。け、
と、
守と、
ま、
○象曰、不出戶庭、知通塞也。と云は、
護守り、
と、
○九二、不出門庭。と云は、
け、

心くはまんぢんの情あるを去る

○象曰安節之吉承上道也 といふは上と一して八節も亦

あつぐひまじく長ぜら道よりけきてがふ安國一に持せよ情ある

バも道きとある屋からざるの義あり

○九五甘節吉往有尚 以尚り則陽中孚の往よ信よ

あまて節よあまの主たり 玄程よ物小あまてハよく安む 行ひ

ト衆へもよらこむあつぐ節の事あまるものやけん持よ

情よかしくも也

○象曰甘節之吉居位中也 といふハ節ハ中道也

又言信よ飛くよく中道をたちらぬが故よ其甘美の義あかひし

人のならむいあつがあ知やけん持を懐くよんあま

○上六苦節貞凶悔亡 けあつらまあは節の極よして陰の終なり

玄程よあまり困窮するもあしむる変と損くく中よあつら

てよんありけん持よんあつら 不及の理を情てよんあり

○象曰苦節貞凶其道窮也 といふハ節も苦して困る変あ

まてハも道困窮するもあしむる変と損くく中よあつら

これざる事一も事あつらざる事よ情てよんあり

○元龜曰船行風横之課 といふハ舟の風も横く節も

○彖曰出剛柔始交而難生動乎險中大亨貞 ハシクワ シウハシメテ シウワ ヲシナシ

此卦とは坎ありて陰下モ是處を留まて動剛柔始ありて

交ルより始リ 通ざるを何と曰くして艱難ありて去程は

物に和蘭去るより情何くハ震雷あり動はありより

宜め満て萬物を生致遂がてくる何と何と能情

何の邊ふきがてととあるひあるひあり

○象曰雲雷屯君子以經綸 ウニ ライマルハチシクニ シヨロミツケンケイリス

震雷方貞とし陰陽の事と和せざる故に兩方

と何と何と君子は事あるに天と地とありて

けり物も衆人と和合し屯難とありの情を

○初九磐桓利居貞利建侯 ハシクワ スクニス リアリ ヲルニテイニリアリタウレニキミラ

下モより屯難の時ありて屯難とまかりか

故に磐桓して進まず遠まかりて難

とありてより其志とかりて

去程より貞固の守りありて

屯難の始より輔助のたまけり

○象曰雖磐桓志行正也 イハヒハシクワ スクニス トコガシクニコナフニタヒキミラ

時よりつづるごとく磐桓して進めざる故に

其の難きふらふは極よあまは衆人極し陸よはるあり
此の極は情の時大に民を得て屯難は救ありてを
○六二屯如遭如乘馬班如匪寇婚媾 沙河の至るは陰
原のよきも休まそ屯乃時はありをよき意ざるあり
よの里馬に乗てゆくむやまれば婦ありてあしこ
意するところあり難し極た貞固の道はかして守り
志は易なり極をとりて情あまは西無城はて
通ざることありんけん特は情てよにあり

○象曰六二之難乘剛也 ときは屯難の時よみそ

陽乃はははのよよははのち其剛陽のたぬはは
らまそそんよかきさる我された貞固は情はははの
可きとありてよのさく意するものよんばじかあり
何むと云はなり

○六三即鹿无虞惟入于林中 沙河の至るは陰

よの里剛陽の位よはまきどなりきとありてあまは勅て
来て城を食て屯難はあしこき我を殺す来どつた
意は極のたまけ意ざる庶よつては鹿人なりがどし
君よ、意は極のたまきどしとらんてかたはば子捨て

とらふことぞ此の物哉能く情何くハ羞者のあとも
あふとて吉の利

○象曰即鹿无虞以從禽也モツテニニニカフキニニと云ふは其のそのがさきよ
かゝるさる変ふらん哉動スとハ私欲のあつたよより其を

信り虞人あらずして鹿はよく禽むさざりての致能情をな
らげるとハ幾とて子舎ハヤクヤルにおもてふにあり

○六四乘馬班如來婚媾往吉无不利ノツテハニニハニニヨアリモトテコニカワリユクハキツメナニストムコリアリは何するも
順オホツクとて君子近オホツクと何き其才オホツクは成り信り屯を救

またくむるよ乘スニて多スニんとまを止ヤト何るがことし然
ども剛陽の正しき我スニも愈スニざりよきたまけ何をもけん

○象曰來而往明也モトメテユクフハアキラカレハニと云ハ其才たつたよ何くハ能く物ケ
我來て去ゆと成明也と云我を去程よ我かきを叙ゆ何と

故ケがさきと男ハ成むとなく其物ケ我來何く私よ物
あつても成るる

○九五屯其膏小貞吉大貞凶オホニスソノアキラカシキウテニトキウニタイテイナレハアリ此何たりハ陽剛オホニスソノを信り
何き其出難の時よ陰中よ入て剛の信かき

とくしそなきけりて去程よ能シなきこと成るる

かゝる徳はくごらきりまする威權イキケンなきにがどくろくぞ
此時ニヤウ徳は権威ケンイなきたゞさんまきふハ山の道ありけん
と云ふ大なることハ情を漸シヅカまふし河の情をそ出奉
と云ふが是てあらり

○象曰屯其膏施未光也 と言は陽のまを陰のうろふま
陰の乃陰中ありそ陰のためふたありくまふり其徳
活の能く大なるしき我は心おそそ正徳あり施
為の情をそあらり

○上六乗馬班如泣血漣如 此何するも雨ハ陰柔のまを

と云ふ屯難の終りまあるそ意豫のなきけなき居と
安かゝるを去程ま馬を乗そゆんとすれ進むとある
しきたま窮きること何れけけんおと能く情剛陽の能く
意ざりの河のまを心を用ひ救為と河をあらり

○象曰泣血漣如何可長也 と言て屯難の終るまより
むもなきまあるがどき我物も屯難の時ありま
能く情を道中からと何れくからぬしそ意ざる
何れむ去程ま時を城まけんおそそ何あり

○元龜曰龜居淺水之課 と言は程居つてそ次にそ

飛然の時成つらん持て然るハ万物生ざるの時
らんとりハ物なり

○ト解曰陰陽始交萬物始生 といふるまは偽カト云ふらん
と云ふ時のよりき成る合するの心持もそよきぞ万物
も陽を成交て漸くよそらてく此れハ陽をハ陰
交の陽をみ来り心持用いて成あり

○ト象曰雷声隱々水中聞險難前程必遇也 といふハ意の
色ハききもあ申す何れもそ何れざるでときぞ險難乃
けにききと前もあそ何れ進むときぞ吉程ハ物成

ぬミ深き子源がこく危王地ニ入河もそいぬりて他
のを河もむと成情む乃物あり

水火既濟

○録曰既濟亨小利貞初吉終亂

既濟を以てよりる

て其の用成なるをより大なるを以てよりる

亨と云ふはあり然る共油の成能あり

あはれは終るよりなり此の持めて初めより終る

礼がらるの情をそとせたり

○彖曰既濟亨小者亨也利貞剛柔正而位當也

け部は亦剛柔正なりあり

其高城行つて城道ケざり然も亦婦人の帯とあつて行つ
とならざるがほどに然る中白の道に城ありと云はれ素の
と情けの命逐て十日得てく時愛れを行つて何れの事あり
けんおまそ、まの乃愛れりと及合まりの情もそふにあり
○象曰七日得以申道也、と云はれ、何れも用らるべきは、何れぞ、
ま申道城よく守まらるは用らるべきあり、じんおまそ、
あづく、何れもと、若、我が素の守、城あり、ま、
ほ、あまそ、ふに、なり、

九三、高宗伐鬼方三年克之、小人勿用、

剛地、陽位、子辰、剛を用、と、言、宗の鬼方伐、
聖賢、れ、君、暴、礼、と、何、伐、ま、る、と、は、臣、伐、救、城、以、て、ん、と、
小人、ま、り、て、は、我、れ、を、望、む、と、云、と、城、に、か、と、て、人、城、
を、あ、る、い、欲、と、肆、ま、る、と、云、小人、は、勿、用、と、あり、此、に、お、城、
と、情、で、ま、り、

○象曰、三年克之、憊也、と、云、ふ、は、兵、伐、用、と、言、宗、の、
賢王、よ、く、も、其、情、を、ま、り、と、云、ま、り、と、云、三年、よ、く、と、克、と、云、城、
小人、乃、と、云、れ、と、情、で、ま、り、

○六十四、有衣、日戒、

其の儀に 既済乃時分たす 患除 聖城慮て
舟の海に 舟子 舟の海に 舟子 舟の海に 舟子
のさるる 舟より 夕子 夕子 夕子 夕子 夕子
患除 防ぎて せむる 皇

○象曰終日戒有所疑也 此は既済の時より 何れも
常子患れり 此は既済の時より 何れも
終日戒なり 此は既済の時より 何れも

○九五東鄰殺牛不如西鄰之禴祭實受其福 此は
あし 此は既済の時より 何れも
既済の時より 何れも
禴祭の時より 何れも

象曰東鄰殺牛不如西鄰之時也實受其福吉大來
此は既済の時より 何れも
禴祭の時より 何れも
禴祭の時より 何れも

○上六其亡矢厲也 此は既済の時より 何れも
此は既済の時より 何れも
此は既済の時より 何れも
此は既済の時より 何れも

○上六其亡矢厲也 此は既済の時より 何れも
此は既済の時より 何れも
此は既済の時より 何れも
此は既済の時より 何れも

険す 嶽の根柢の水に洩るゝと慮はて有と備ふ
どく、慮ありは、しおやん陰糸より、元儀とに、危アラスキ
情シでもとらん

○象曰、湍其首、属何可久也、と云は、既濟の柢、よく危キ
背バ、波ハ、湍ス、よ、玉ル、ぎ、刃ノ、溺ツ、る、統チ、知ラ、ぎ、る、能シ、此ノ、時ヲ、也

○元亀曰、舟楫、濟川之課、と云ふ、川、越ク、ら、る、る、舟ノ、楫ヲ
よくとれば、難ナ、む、に、く、陰陽ハ、も、配ハ、合ハ、あ、る、と、く、心ヲ、持シ

から、に、あ、る、の、情シ、を、そ、く、ん、り、り

○ト解曰、既濟者、奇キ、之ノ、既成也、心ヲ、持シ、と、何レ、至ス、も、戒イ、懼ビ

され、バ、何レ、に、く、何レ、に、能ク、情シ、あ、ま、ハ、毛、終リ、と、係ハ、て、在リ
と、云、ふ、也、也、り

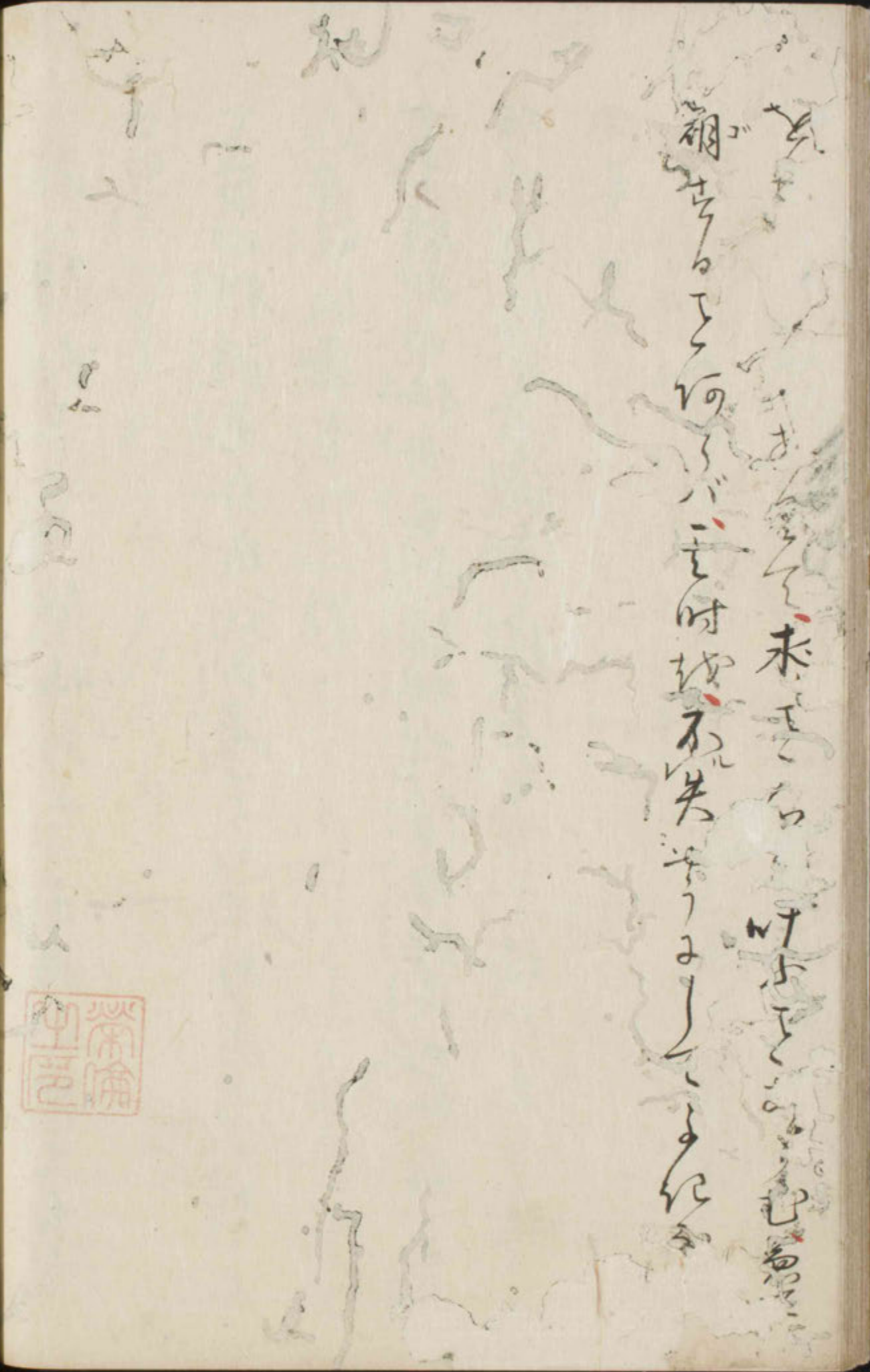
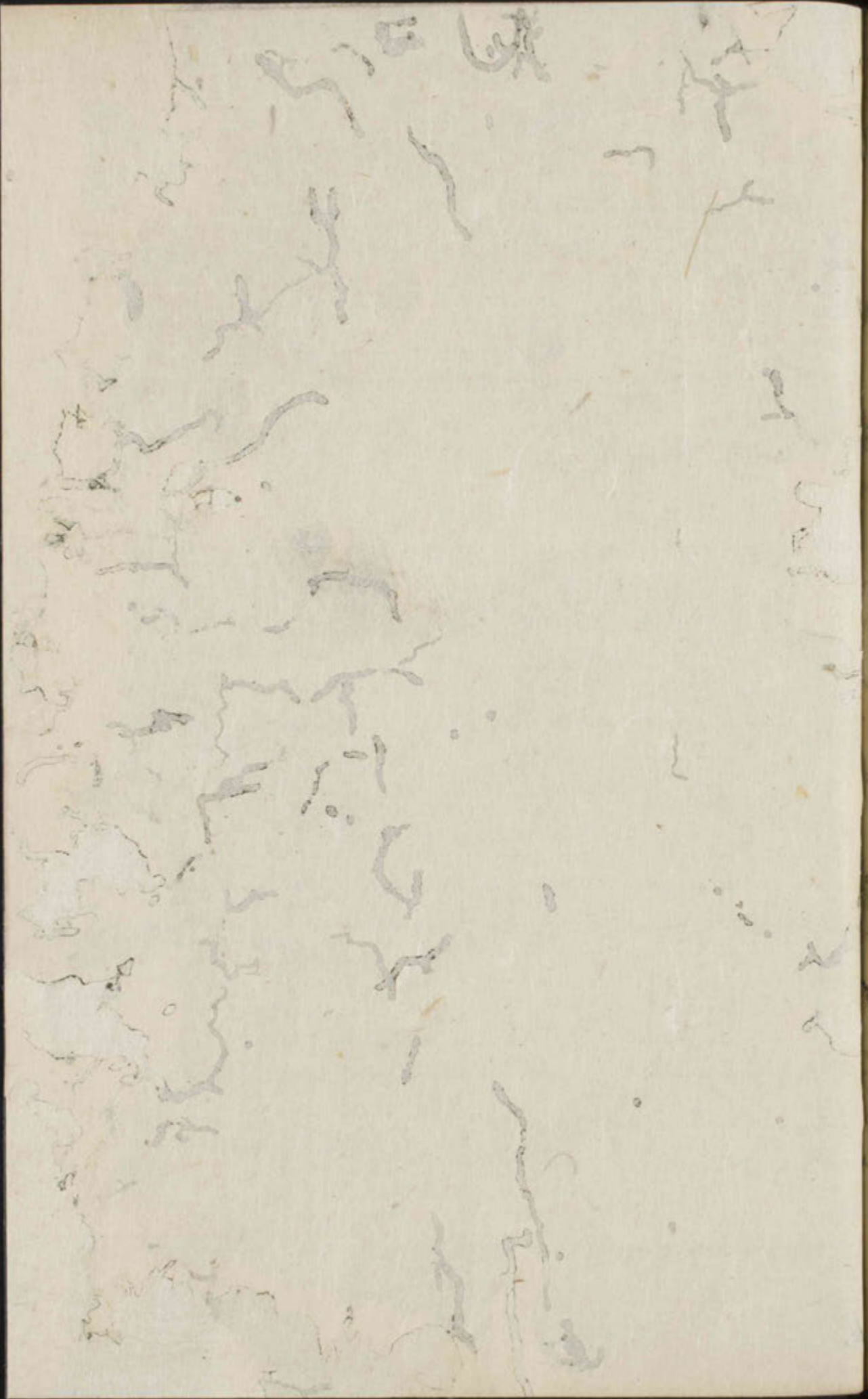
○火贖曰、往渡、克舟、成功、必濟、と云、幸サイ、あ、る、の、為ニ、拘ク、と、云、
ん、ま、つ、ひ、遂ニ、と、何レ、む

○十干詩断曰、仙舟已到、緑楊堤、陰難、經來已脱離、と云
險ケン、難ナン、經キヤウ、又モ、禍カガヒ、お、く、流ス、と、か、か、て、福トク、乃、來ル、と、統チ、也

の、為ニ、お、り、

詩曰、既濟、合ハ、木ヲ、相ク、會ハ、合ハ、義ニ、也、と云、是、衆ノ、人ノ、よ、命ヲ

あ、る、と、云、ふ、也、也、り、
と、云、ふ、也、也、り、
と、云、ふ、也、也、り、



未^レだ^レも^レあ^レら^レず
 何^レに^レも^レあ^レら^レず
 時^レに^レあ^レら^レず
 世^レに^レあ^レら^レず
 心^レに^レあ^レら^レず
 世^レに^レあ^レら^レず
 心^レに^レあ^レら^レず
 世^レに^レあ^レら^レず
 心^レに^レあ^レら^レず
 世^レに^レあ^レら^レず
 心^レに^レあ^レら^レず



132X
32/8
10